

ホットケーキ1枚

幼児の許容量超す

アルミ、膨らし粉に含有

ホットケーキやパウンドケーキを週に1個食べるだけで、幼児ではアルミニウムの取りすぎになってしまう場合があることが東京都健康安全研究センターの調べでわかった。アルミを含む膨らし粉(ベーキングパウダー)が原因らしい。神経系などに影響を与える可能性があり、摂取量を減らす対策が必要としている。

同センターの植松洋子食品添加物研究科長らは、市販されているホットケーキミックス粉6種、クッキー、ドーナツなどの焼き菓子57種など107の製品を検査。ミックス粉3種、焼き菓子27種からアルミを検出した。これらの製品は、膨張剤やベーキングパウダー使用と表示があった。ミックス粉では1枚あたり最大0・53ミラグラム、焼き菓子ではパウンドケーキやスコーンで最大0・37ミラグラムだった。この場合、ホットケーキ1枚(粉で約50g)にアルミ約27ミラグラム、パウンドケーキ1切れ(約50g)で同約19ミラグラム含まれる計算になる。

世界保健機関(WHO)などが定める1週間の暫定耐容摂取量(PTWI)は、体重1kg当たり1ミラグラム。体重16kgの幼児では16ミラグラムになり、ホットケーキ1枚で1・7倍になる。ただし似たような製品でも含有量に大きな差があり、検出されないものもあった。使っている膨張剤の成分の違いによるらしい。

アルミの人間への影響はまだわかっていない。動物実験では生殖器や発達中の神経に変化が現れるなどの影響が出ている。WHOなどは2006年に、これまでの想定より少ない量で影響が生じるかもしれないという調査結果に基づき、PTWIを7ミラグラムから現行の1ミラグラムに引き下げている。

アルミは食品衛生法で食品添加物として認められている。国内では、水道水で1リットル中0・2ミラグラム以下とする基準があるが、食品にはな

い。食品安全委員会が今年3月から、審議するためのデータ集めをしている。

膨張剤の成分や、アルミ含有量の表示は義務づけられていない。しかし最近では「アルミフリー(不使用)」と明記した膨張剤やミックス粉も販売されており、通販や自然食品を扱う店などで買える。

健康安全研究センターは「表示の見直しや、摂取量を減らすには有効」としている。(鍛冶信太郎)

中越地震6年 長岡で慰霊式

最大震度7を記録し、死者68人、重軽傷者4795人、住宅被害12万戸超をもたらした新潟県中越地震は、23日で発生から6年となった。車ご

と土砂崩れに巻き込まれて母子2人が死亡し、約92時間後に当時2歳の皆川優太くんが救出された同県長岡市妙見町の現場にはこの日朝、献花台が設けられ、泉田裕彦知事が花束を手向けた。

震災後、避難住民のための仮設住宅が並んだ同市千歳1丁目の土地は今春、消防庁舎などを備え、災害時には防災拠点となる市民防災センターに生まれ変わった。約2千億円の復旧費が投入されてインフラ整備は進んだが、被災後に人口減が著しい山間地域の集落再生や産業復興が課題となっている。(松本英仁)